

水資源環境学会  
2025年度冬季研究会  
(2026年3月14日:「長岡京中央生涯学習センター」)

# 開会挨拶

水資源・環境学会会長  
仲上健一

- **【テーマ】—末石富太郎教授の提言を中心に—**
- 水資源・環境学会設立前からのメンバーであり、水資源・環境学会設立および研究推進に多大なご貢献を頂きました、末石富太郎先生（大阪大学名誉教授・滋賀県立大学名誉教授）が2025年7月15日に逝去されました。
- 2025年度冬季研究会では末石富太郎教授の水資源・環境学会へのご貢献を広く紹介し、今後の水資源・環境学会の研究活動に問いかけられたものを探りたいと思います。



第4回国公私3大学環境フォーラム  
2017/12/09、熊本県立大学  
<https://ameblo.jp/m-tsuji/entry-12335591636.html>

- **末石 富太郎. 上下水道における集配水の合理化に関する基礎的研究. 京都帝国大学, 1961年11月15日**

## **工学博士/394P**

- **第Ⅰ編 緒論**
- **第Ⅱ編 横からの流出入のある流れの水理学的研究**
- **第Ⅲ編 上水道施設における集配水の水理設計に関する研究**
- **第Ⅳ編 下水道における雨水の排水に関する研究**
- **結論**

## • 結論

- 本論文においては取り扱わなかった他の集記水設備に対しても、これまでに得られた成果を活用して研究をすすめるとともに、さらに**水質学的・経済学的な手段をも総合**して、より充実した集配水ないしは上下水道計画手法の完成を目標として努力してゆきたいと考えている。

論 説

## 環境リスク——機能論と意味論

末石 富太郎

滋賀県立大学環境科学部環境計画学科  
(財)千里リサイクルプラザ市民研究所

### 要 旨

この論説は、水資源計画や環境計画を成熟させるために、リスク管理の諸問題をできるだけ広範にとらえ、最近の新しい論考をも参考にしながら、環境リスクの総説を試みたものである。副題の「機能論」は、わが国で「リスク＝危険」と短絡され、危険回避のための安全対策や組織編成が常に決定論的に取り扱われるのを批判することを表し、これに対して「意味論」は、環境システムないしは人間生態系を人文社会的な連関をも含めた複雑系として認識する立場でこそ、 $\text{リスク} = \Sigma [\text{損失} \times \text{発生確率}]$  を軽減する多様な接近が可能なことを表している。全体を通じての最も重要な切り口は、リスクの受容／管理に関する主体の問題と小説家の役割をも含んだリスク情報システムの新しい展開である。

論 説

## 水関連技術からみた生活史の再検討 合成の誤謬

末石 富太郎  
大阪大学名誉教授

### 要 旨

この論説は、2002年6月1日に水資源・環境学会第18回大会で、筆者が発表した「生活史的にみた下水道技術の誤謬」を改題したものである。現在、あらゆる分野で構造改革の必要性が論じられている。このためには関連する歴史を再検討することが欠かせない。生活とは、「物質・エネルギー・情報を介した人間行動と環境との交流」と定義でき、これら3要素のいずれの特性も備えている水は、人間の生活様式に影響する最重要因子と位置づけられる。ここではまず、筆者が直接・間接に経験した水関連技術の変遷から、批判的立場での年表を作成し、これを解説するという方法で論述を進めた。主な内容は、技術組織の問題点の抽出、遠距離輸送にもとづく大量水使用の誤りの指摘を含め、水文明の大転換の必要性である。

キーワード：合成の誤謬、上下水道の広域化、総括原価主義、地域分権的民営化、dry sanitation

水資源・環境研究  
Vol.30, No.2 2017  
仲上 pp.51 ~ 53

特集 水資源・環境研究 30 巻を振り返って

特別寄稿①

## 「水関連技術からみた生活史の再検討」の今日的意義

対象論文：末石富太郎「水関連技術からみた生活史の再検討——合成の誤謬」

本誌15号(2003)掲載

仲上健一\*

## 水環境破壊の記憶と記録 地域自立促進法に向けて

末石 富太郎

大阪大学・滋賀県立大学 名誉教授

### 要 旨

環境問題の解決には、できるだけ身近な課題を対象として、市民レベルも含めた問題把握への習熟を図ることが必要である。この論説では、水環境を地域分権的に扱うことを主目的に、環境破壊を機能的にではなくむしろ感性的に捉え、大学や学会を含めた関連組織が連携する方策を模索する。ダム型の環境破壊を記憶にとどめ、自然の動態に重点をおきすぎた環境科学にnegativismの発想を加える必要を論じたのち、筆者が関わった水行革の提言を例示して問題点を摘出する。要諦は、市民立法をも含めた地域分権にあり、その先導を大学が果たすべき根拠を示し、具体的な提案を行う。

キーワード：水環境破壊、失敗研究、行政改革、地域分権、市民大学